

おお大勝利

平成 23 年度山東サッカー部報第 3 号 (4 月 18 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Y1 第二節 東海戦は分ける

4 月 16 日 (土) べにばなスポーツパーク第二運動広場 (人工芝) にて、Y1 (県リーグ 1 部) 第二節が行われました。山形東は前節と同様その日の取りを飾る 15:30 スタートの第 4 試合。午前中は陽気だったものの、昼位から曇り、風が吹き、雨が降り始めました。その日、山形市野球場で行われる予定の野球の東南定期戦の開催が危ぶまれる風雨。しかし前日、野球部顧問にして「山東について知らないことはない」地理の A 先生が「降るにしても (野球場の土への) 丁度良い散水になる程度で降り続けることはない」と予報した通り、昼過ぎには晴れ始め、午後には太陽も覗く天気。良い天気の中、東海大山形戦が行われました。

東海は、前号で書いたように、2 年生に好選手が多く、戦力が充実しているチーム。ボールを丁寧につなぐ伝統に個の力強さが合わさったような、そんな印象。伝統の「平行 (= 横パス)」も「強平行」へと発展を遂げている¹。山東は前節の山形城北戦に勝利したものの内容的にはさびしいものがあるし、あらゆる点で東海が一枚上手という昨年度の公式戦・練習試合の印象があり、苦しい試合展開を予想させる。とはいえ、遅くとも 8 月、早くも 5 月で引退する選手の多い山形東にとって、3 年生のいるうちに勝ち点を積み上げないことには厳しい。山東の側も、伝統の、技術の差を得点差に反映させない粘り強い戦いが求められる。

試合が始まると、思ったより良い立ち上がり。押され続けることを予想していた、そこでどう耐えて少ないチャンスをもにものにするか、を試合の分かれ目として考えていたのですが、そこそこやっている。山東の布陣は、守備偏重になって一発狙えないのでは面白くないとの考えから、攻撃的に行ったつもり²。それが功を奏しているのか、最初の得点の匂いのするシュートも山東から放たれている。4 月頭に行われた鶴岡遠征では、Y1 で全敗するのは間違いない、と思わざるを得ない出来だったのですが、東海相手にまずまずの試合をしている山東の選手たち。顧問から見ても、どれが彼らの本当 (の力) なのか、よく分からない。そんな良い流れの中、相手をゴール前に押し込んだ状態からボランチのケンが振り向きざまにふわ

¹ 3 月 29 日付の東海大山形サッカー部のブログ「春の練習試合シリーズ 山形城北」に初めて掲載された表現です。この用語が日本で流行れば、出自は東海のもので、皆さん覚えておきましょう。ちなみに山形東サッカー部から伝播していった (してます?) と勘違いしていた「シューティング (センターリングが「誤って」シュートとなり得点となったもの)」ですが、今回「強平行」を書くに当たってネットで調べてみたら、2001 年のジュビロ磐田の選手発祥のモノであることがわかりました。これまで山東 (2007 年の仙台ブーマカップにおける鬼嶋の表現) を初としていた記述を訂正いたします。また「強平行」もネットで調べてみたら、ヒットしたのは物理学? のサイトかパチスロのサイトでしたので、サッカー用語としてはやはり東海大山形が初かと思えます。東海の M 川先生が、物理学かパチスロか、どちらかの影響を受けてその用語を編み出したかは、定かではありませんので、今後の調査の課題としたいと思います。

² 攻撃的に行ったとしても、押し込まれれば守備中心の試合運びを強いられるわけで、その時に逆襲する力をチームに残しておかなければならない、との考えから。

りと浮かすミドルシュート。東海 GK も、まさかシュートが来ると思っていなかったのでしょう、やや高い位置（ゴールから離れた位置³）にいたものですから、その頭上を越えて決まるビューティフルシュートとなる。東海 GK を責められない、それだけ素晴らしいケンのシュートでした。東海相手に予想を覆す先制点を決める。その後は、やはり東海は力のあるチームだけに、確実なパスワークから山東ゴールに迫り続ける。特に 1・5 列目（FW と MF の中間地点）で仕事をしてくる東海の FW に昨年同様ゲームをコントロールされ、失点も時間の問題と思わせる。すると、サイドを挟られクリアが中途半端になったところを短くパス交換されて、焦った山東 DF が東海の選手の体を（ボールとは無関係に）弾き飛ばしてしまい、PK を与えてしまう。難なく決められ、1 - 1。あとは耐えて、そのままハーフタイムへ。

得点后受け身になり立ち上がりの好調を維持できなかった前半の反省から、得点を奪いに行く意識の統一をはかって後半のピッチに入って行った山東。「受け身に回らず前から行くぞ」との CDF ゴウの声掛けがチームを鼓舞し続ける後半。ゴウは「下手だけど、頑張る」山東の象徴です（力点は後半部にあります）。しかし、なかなか守備は安定せず、ロングボールの処理を誤るプレーを的確に突かれ、失点。逆転を許す。「先制したまでは良かったんだけどな～、馬脚をあらわすとはこのことだな～」と一人つぶやく⁴。山東の MF と DF の間のバイタルエリアを有効に使う東海の攻撃を次第に止められなくなってきており、東海ゴールが遠く感じられる中、この逆転弾は痛い。しかし！この日、諦めない心、粘り強いサッカーすなわち山東サッカー部の伝統を選手諸君は見せてくれました！！しつこくドリブルで攻める形から、MF ゴメが同点となるドリブルシュートを決める。2 - 2。その後、二度ほど FW が相手 DF ラインを抜け出してチャンスを作るも、決め切れず、結局ドロー。チャンピオンチーム東海大山形相手に負けなかったということ喜んでいいのか、最後のチャンスをものにして勝ちたかったという悔しい気持ちでいいのか、良く分かりませんが、とにかく選手はよく集中して頑張ったと思います（ケンとゴメは二戦連発です）。

次節の相手は山形中央、そしてその次は日大山形。両チームとも言わずと知れた強豪校です。応援よろしくお祈いします。

開始時間が変更されましたので、ご注意ください

4月30日（土） Y1 第3節 VS 山形中央 15:30 キックオフ @ 天童第二（人工芝）

5月1日（日） Y1 第4節 VS 日大山形 12:00 キックオフ @ 日大山形 G

1年生の皆さん 歓迎いたします！！

4月18日（月）山形東にて一斉部会が行われ、新入生が正式に入部することとなりました。サッカー部の入部は選手18名、マネージャー1名の全19名の近年にない大量入部となりました。男子121名の中の18名ですから、立派な数字です⁵。1年生の皆さん、山東サッカー部へようこそ！決して楽な部ではありませんが、ともに頑張りましょう。保護者の皆さま、よろしくお祈いいたします。まずは5月1日（日）の保護者会歓迎会にぜひご出席を！！

³ サッカー用語では相手ゴールに近い位置ほど「高い」と呼ばれ、遠い位置ほど「低い」と呼ばれます。

⁴ 実はこの試合、一人で見えていたのではなく、今年コーチ（トレーナー）としてチームをサポートして下さることになった芹川整骨院の名和さんと見ておりました。名和さんは、大山君と同じ名門ティグレ東根（中学は大富中学）そして天童高校サッカー部出身です。名和さん、よろしくお祈いします！

⁵ ただ手放しで喜べないのは、121名と過去最低の男子生徒数（女子は過去最多の120名）の中からサッカー部に大量入部したということは、そのあおりを受け、新入部員数が少なくて困っている部があるということ。複雑です。